



「宿木とモンサンミシェル」F120 号

たぶろう会 45 周年記念でたぶろうの仲間 15 名と 10 日間のパリ旅行に行った。パリ到着以降は同じホテル滞在でほぼ自由行動。ベルギーの世界遺産「ブルージュ」、バルビゾンへ半日スケッチ、夜のコンサート鑑賞、セーヌ川ディナークルーズとポイント毎の団体行動は設定されていた。

自由行動では 1 日観光バスでモンサンミシェルへ行った。あいにくの雨模様であったがモンサンミシェルは雄大で威厳があった。ここの名物料理はふわふわのオムレツ。昼食後モンサンミシエルの見学へ。ずっと雨は降り続けている。スケッチどころではないが雨の中最後に 1 枚モンサンミシエルの全景を描いた。牧場の中の木々は宿り木だった。

パリはたぶろう会にとってゆかりのある都市です。たぶろう会創立者の並木義治先生の師匠は里見勝蔵先生です。里見先生はパリ郊外のオヴェール・シュル・オワーズでフォービズム大家のウラマンクと出会った。そんな意味でここオヴェール・シュル・オワーズはたぶろう会のルーツの地だと思う。ゴッホもここで多くの作品を描き今はこの地で眠っている。奥さんとスケッチがてらにゴッホのお墓を訪ねた。蔦に絡まれた質素なお墓であるが世界で最も有名なお墓だと聞いた。観光客も多く訪ねてくる。